

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 17 日現在

機関番号：34301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2015

課題番号：24720028

研究課題名(和文)タイ国を中心とする東南アジア撰述仏教説話写本の研究

研究課題名(英文)A Study of the Manuscripts of Southeast Asian Creative Buddhist Narratives kept in Thailand

研究代表者

清水 洋平 (SHIMIZU, Yohei)

大谷大学・文学部・非常勤講師

研究者番号：50387974

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：従前の科研プロジェクト「タイ国中部地域の王室寺院が所蔵する東南アジア撰述仏教説話写本の研究」を承け、その研究課題の中で作成した同地域の寺院が所蔵する貝葉写本の文献タイトルのみを記した所在目録を改善した。個々の文献の写本資料としての資質が整理され、文献ごとに様々な既出の所在目録との横断的な整理がなされた一次資料の所在目録及びデータベースを構築した。

これらを活用し、仏教説話文献をより深く探究する手段として、その鍵となる「アーニサンサ(anisamsa)」と呼ばれる、一群の積徳行に関わる未開拓の釈義文献の文献学的研究をスタートさせることができた。

研究成果の概要(英文)：The present research is an extension of my previous research project entitled "A Study of the manuscripts of Buddhist narratives created in South-east Asia and currently kept in various royal temples in central Thailand". During the present research period of four years, I prepared an improved version of the catalogue and database made already in my previous research period that contains the titles of the Buddhist texts mainly. The improved version focused mainly on two points, i.e. (1) ascertaining the nature of the manuscript data and (2) comparing the data with other catalogues already published.

This database is very much helpful to study 'anisamsa' literature that deals with the accumulation of merits. This literature is the key to understand the Southeast Asian Buddhist narratives properly. We have already started working on the 'anisamsa' literature and now the gate to the study of 'anisamsa' literature is open to the scholars, which was shrouded in darkness until now.

研究分野：人文学

キーワード：貝葉写本 上座仏教 東南アジア仏教 タイ写本 データベース 積徳行 アーニサンサ

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 東南アジアの大陸部で長らく書写され、伝承されてきた貝葉や折本紙による仏典写本は、現在、一部の寺院の経蔵に無雑作に保管されているものも多く、所在やその内容は不詳のものが多い。また、所蔵環境も良くないことから隠滅の危機に瀕している。この状態を危惧する研究者並びに研究機関がその調査・収集、或いはカタログの作成に努力している。

(2) このような現状を踏まえての従前の科研プロジェクト「タイ国中部地域の王室寺院が所蔵する東南アジア撰述仏教説話写本の研究」(研究活動スタート支援 22820077)では、今まで調査が手薄であったタイ国中部地域の寺院が所蔵する写本資料の調査・収集に努めた(1788年に仏典結集が行われた第一級王室寺院ワット・マハータートユワラートランサリット、同地域で手付かずのまま残されている貝葉写本の所蔵量が最大級である第二級王室寺院ワット・ラーチャシッタラムなど、その他7ヶ寺の調査を行った)。それと同時に、現地調査で得られた東南アジア撰述文献を中心とする貝葉写本の数多くの情報(1700套(一套の中に複数の文献が所収されることが多い)を超える貝葉写本集成)をとりまとめ、その所在目録を作成した。

(3) これを承けて、東南アジア撰述の仏典研究に取り組んでいる国内外の研究者、研究機関から個々の文献についての写本資料の所在や、同一文献の写本としてのヴァージョンの有無などについての情報提供の要請を受けるようになった。

## 2. 研究の目的

タイ国を中心に従来より同地に継承されたクメール文字で記された貝葉写本を中心に、同国に流布する東南アジア独自撰述の仏

教説話写本を調査・収集し、その網羅的な研究を目指すものである。先ずタイ国中部地域の寺院が所蔵する貝葉写本の所在目録を作成し(ほぼ完了)、個々の文献の一次資料としての資質を検証し、併せて既出の所在目録との横断的な整理を行う。そのことを通じて、東南アジア撰述仏教説話写本研究の基礎となる一次資料所在目録及びデータベースの構築とその公表を目的とする。以降、個別写本研究に進み、特に東南アジアの積徳行について文献学的な裏づけに基づく仏教学の立場からの研究に歩を進める。

具体的には、従前の科研プロジェクトの中で作成したタイ国中部地域の寺院が所蔵する貝葉写本の文献タイトルのみを記した所在目録を改善し、国内外の研究者、研究機関の要望に的確に応え得る新たな所在目録・データベースの構築を行う。次に、仏教説話文献をより深く探究する手段として、その鍵となる「アーニサンサ(ānisaṃsa)」と呼ばれる一群の積徳行に関わる釈義文献の基礎的な文献研究を行うという2つのアプローチを取る。

## 3. 研究の方法

(1) タイ国中部地域の王室寺院が所蔵する貝葉写本の所在目録の作成を通じて、浮かび上がってきた個々の文献の写本資料としての資質を整理する。具体的には、以下の2つの事項についての整理作業である。

同一タイトルの文献であってもその内容分量に異なりがあり、同一文献に複数のヴァージョンがある可能性がある。よって、十分な区分けが必要である。

タイトルが様々に異なる同系統と思われる写本が多く存在する。これらについて、十分な仕分け整理を行う。

(2) 現在までの調査で収集してきた東南アジア撰述仏教説話文献を中心とした約4万枚近

くのデジタル画像資料を所在目録に反映させる。具体的には、デジタル画像化して収集したこれらの貴重な貝葉写本データについて、肉眼での判読が最適になるように画像処理を施し、写本目録とデジタル画像をリンクさせたデータベースを構築する。

(3) 整理された所在目録について、文献ごとの様々な既出の所在目録との横断的な整理を行う(フランス極東学院名誉講師 Jacqueline Filliozat 女史が作成、公表されている東南アジアの仏典写本に関わる所在目録: EFEO DATA Filliozat. Database for Pāli documents, studies and bibliographies of Jacqueline Filliozat. Free CO-ROM available on request at EFEO Library.など)。

(4) 新たに構築した所在目録・データベースを用いて、「アーニサンサ」と呼ばれる一群の積徳行に関わる釈義文献の文献学的研究をスタートさせる(タイ仏教では、功德を積むことは「タンブン」と呼ばれ大いに強調される。だが、その理由については、文献へのアプローチが困難だったことを含め、これまで文献学的な裏づけに基づく仏教学の立場からの研究はなされてこなかった)。まず、「アーニサンサ」文献について、関連資料の所在・残存状況、手持ち資料等を考慮した上で、「アーニサンサ」という名称が題名に付される典型としての文献を選択する。次に、典型として取り上げた文献について、対校可能な画像資料を基にクメール文字からローマ字に転写する作業を行う。そして同文献についての2つ以上の写本からなる校合テキストを作成する。その後、作成した校合テキストを基に、校訂テキストの作成並びに読解作業を行う。

#### 4. 研究成果

(1) 上記の「3. 研究の方法」欄(1)で示した整

理作業に伴い、その正確性を高めるために、2012年度には、ダブリンに所在する The Chester Beatty Library(世界各地から集められた写本を中心とする2万点以上の美術品を収蔵することで有名)、並びにロンドンに所在する The British Library を訪問し、整理作業を進める中で他の写本との比定確認の必要性が生じた一部の文献について、両図書館が所蔵するクメール文字パーリ語写本の中から、関連する文献写本との比定確認の作業を実施した。また、2013年度には、写本調査を実施してきたバンコク所在のワット・ラーチャシッタラム、第一級王室寺院ワット・アルン、第二級王室寺院ワット・ホンラッタナーラム、並びにバンコク郊外パーンクンティアン区所在のワット・ファクラブーの4ヶ寺を再訪し、所蔵されているパーリ語写本文献についての意見交換を各寺院の長老と行った。さらに、既に写本文献の所蔵リストが保持されているバンコク所在の第一級王室寺院ワット・プラチェートウボン(通称ワット・ポー)において、「タイ王室版」の一つとされる同寺院が所蔵する貝葉写本を参照しながら、整理した所在目録の中の一部の文献について、タイトル等の比定確認の作業を実施した。これらの比定確認の作業により、上記の整理作業に伴う、その正確性を高めることができた。

このことにより、国内外の研究者、研究機関の要望に的確に応え得る新たな所在目録・データベースが構築できた。そして、その成果を国内外の学会や雑誌論文等で発表した。

(2) 2014年度からは、整理された所在目録を活用して、東南アジア撰述の仏教説話文献の更なる理解に資するべく、「アーニサンサ」という名称が題名に付される典型としての写本文献を選択する作業に取り掛かった。そして、今まで未開拓であったタイ仏教の積徳

行に関わる釈義文献の文献学的研究をスタートさせることができた(「5. 主な研究論文等」欄 参照)。

(3) これらの所在目録・データベースの構築は、現在まで殆ど実態が不明であったタイ国中部地域の王室寺院が所蔵する収蔵文献について、その特徴が明らかになることに繋がる。また、これまで東南アジア撰述仏典研究の上で進展を阻害してきた第一次資料及び所在目録の不足の問題について解決が図られ、今後の東南アジア撰述仏教説話写本の研究進展に大きく寄与することが期待される。

「アーニサンサ」文献というジャンルの研究をスタートさせ得ることは、未開拓である同文献群の全体像解明に繋がると同時に、東南アジア撰述の仏教説話文献研究の新たな第一歩でもある。そのことにより、タイ仏教における積徳行の文献学的な実証が可能となり、そのことが、東南アジア大陸部に展開した仏教の独自性を理解する上での重要な手掛かりになると期待できる。また、同文献研究は、歴史学や社会学の立場からなされているタイ仏教の現実相の研究に、基礎資料と新たな知見を提供することに繋がるであろう。

(4) 現在、欧州図書館等が所蔵する東南アジア写本の情報公開・研究に従事する Southeast Asia Library Group(SEALG)や、ペンシルバニア大学図書館が主導し北米を中心とした図書館・美術館が所蔵するタイ伝承写本のアーカイブ事業 Thai Digital Monastery and Manuscript Archive(TDMMA)、タイの Dhammachai Institute が主導するスリランカ、ミャンマー、タイに伝承する三蔵の新たな校訂テキスト作成プロジェクトなどが活発な活動を開始しており、研究環境整備への気運が高まっている。

よって、今後は、これら他のプロジェクト

との連携をさらに図り、本研究課題で得られた所在目録等との成果と、これら他のプロジェクトでの同様の成果を相互に共有させた形で多くの研究者・研究機関に情報提供ができる仕組み作りが望まれるのである。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計6件)

Yohei Shimizu, “The Siamese/Thai Buddhist Manuscript Collection at Otani University”, *The Eastern Buddhist*, New series, 45(1&2). 2016年、査読有。

清水洋平、「タイ国中部地域の王室寺院が所蔵するクメール文字写本について」、『佛教史學研究』、第58巻第1号、1-17、2015年11月、査読有。

清水洋平・舟橋智哉、「タイにおける積徳行とパーリ経典の関係—貝葉写本 *Sabbadāna-ānisaṃsa*—」、『印度学仏教学研究』、第63号第1号、339(214)-342(211)、2014年12月、査読有。

清水洋平・舟橋智哉、「*Mahābuddhaguna aṭṭhakathā* (『偉大なる仏徳の註釈』) —クメール文字からのローマ字転写テキスト—」、『真宗総合研究所研究紀要』、第31号、251-303、2014年3月、査読有。

Yohei Shimizu, “The Importance of Primary Source Materials with Special Reference to the Buddhist Manuscripts of Thailand,” *Southeast Asia Library Group Newsletter*, 45, 29-39, December 2013, 査読有。

清水洋平、「タイ国の仏典写本と造形」、『アジア民族造形学会誌』、第13号、71-84、2013年3月、査読有。

[学会発表](計5件)

(公開講演会) 清水洋平、「大谷大学が所蔵するタイの仏典写本について」、大谷大学真宗総合研究所「大谷大学所蔵タイ王室寄贈パーリ語貝葉写本の世界」公開講演会、

2016年3月17日、大谷大学（京都府京都市）。

清水洋平、「タイ国中部地域の王室寺院が所蔵するクメール文字写本について」、佛教史学会第65回学術大会、2014年11月29日、佛教大学紫野キャンパス（京都府京都市）。

清水洋平・舟橋智哉、「タイにおける積徳行とパーリ経典の関係—貝葉写本 *Sabbadāna-ānisamsa*—」、日本印度学仏教学会第65回学術大会、2014年8月31日、武蔵野大学有明キャンパス（東京都江東区）。

Yohei Shimizu, “The Importance of Primary Source Materials: with Special Reference to the Buddhist Manuscripts of Thailand,” The 7th European Association for South East Asian Studies (EUROSEAS) Conference, 4 July 2013, School of Social and Political Sciences (ISCSP), Technical University of Lisbon(リスボン(ポルトガル))。

清水洋平、「タイ国の仏典写本と造形」、平成24年度アジア民族造形学会大会、2012年8月20日、東京国立博物館（東京都台東区）。

〔図書〕(計1件)

田辺和子・清水洋平、『アユタヤー期後期作製ワット・ファクラブー寺院所蔵の絵付折本紙写本』、世界聖典刊行協会、180、2016年3月。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

清水 洋平 (SHIMIZU, Yohei)  
大谷大学・文学部・非常勤講師  
研究者番号：50387974

### (2) 研究協力者

舟橋 智哉 (FUNAHASHI, Tomoya)  
大谷大学真宗総合研究所・嘱託研究員